

平成30年度 第1回 公民館運営審議会 会議録

1 日時・場所 平成30年9月28日(金) 13時30分～15時20分
教育センター 4階 大研修室

2 出席者

<委員13名>

稲見秀行委員長	徳沢芳彦副委員長	蓬萊道龍委員
藤原雅子委員	猪坂克子委員	藤枝直司委員
藤原敏行委員	池澤絹代委員	山本学道委員
藤井尚美委員	福島康之委員	岡本貴美代委員
川端昭延委員		

(欠席：圓井恵子委員、疋田江利委員、西森寛知委員、
富田 進委員、寺本善英委員)

<事務局16名>

西本則彦教育長	奥村浩哉教育振興部長	
近藤 豊生涯学習課長		
手島三知子館長	藤田敏行所長	森本英樹館長
中嶋健二館長	狩場泰治館長	友澤幸嗣館長
金子高士館長	穂積正則館長	金井善純館長
福本和也館長	河端 康主幹	藤原功典主事

3 議題

(1) 平成30年度各公民館事業方針について

- ① 各公民館の活動目標
- ② 各公民館の事業進捗状況について

4 公開・非公開の別 公開

5 傍聴人の数 0人

6 会議の概要

-
- | | |
|------------------------|--|
| 1 開 会 | 河端主幹 |
| 2 あいさつ | 西本教育長 |
| 3 委嘱状交付 | 机上交付 |
| 4 報 告 | 平成30年度三木市教育の基本方針(社会教育分野)について
(近藤生涯学習課長説明) |
| 5 議 題 | |
| (1) 平成30年度各公民館事業方針について | |
| ① 各公民館の活動目標 | |
| ② 各公民館の事業進捗状況について | |
| | (各公民館長より説明) |
| 6 閉 会 | 徳沢副委員長 |
-

5 発言の内容

議題（1）質疑応答

- 徳沢委員： 自由が丘地区において、地域のリーダーづくりを主体に新規事業を展開している。緑が丘でも大学生を巻き込んでいる。今後のリーダー養成には、小・中学生の参画も不可欠と考える。各公民館での取組みの状況を教えてほしい。
- 狩場館長： 細川地区では、夏まつりの際、ステージイベント等で小学生から、大学生まで出演していただいている。また、各種団体にはたらきかけに合わせて、特に地域の固有の中学校である星陽中学校の3年生に受付と司会進行を担ってもらっている。
- 藤田所長： 三木南地区は地域特性として、子育て世代が多い。そういった状況の中相互にサポートしあうグループづくりを支援したり、将来的には次世代につないでいけるよう、取組を実施している。
- 金子館長： 生涯学習の基本は、学んだことを生かすことである。その中にリーダー養成も含まれていると考える。緑が丘でも数多くのサークルが活動されているが、特にパソコンクラブは500名以上の登録があり、過去に学んだ方が指導者として活躍されている。また、公民館講座としてもリーダー養成を見据えたテーマで実施しており、地域の中から講師としてきていただき、各自、地域の中で何ができるかを考えていただける内容とした。
- 福島委員： 三木市の観光に関係しての事例紹介（別所ゆめ街道・湯の山街道）
- 稲見委員長： 市内各地区にまちづくり協議会で、市民協議会が公民館と連携して活動されているが、緑が丘地区の特色について説明、願いたい。
- 金子館長： 特色として、まず公民館とは別に自治会館の存在があり、そこで専属の事務員さんが、まちづくり協議会、区長協議会の事務をされている。会計についても、公民館でなく自治会館が担当されている。公民館は会議等意思決定の場に同席している。
- 稲見委員長： 初めて、公民館運営審議会に参加しているが、膨大なる資料に感謝するとともに、各館を比較できるようなシンプルな資料も希望したい。また、年度途中に現状と課題とあるが、既に課題があり年度末にかけて修正していかれるということか。（確認）事務局から、何か提言等はありませんでしょうか。
- 河端主幹： 事務局として提案と相談ですが、各地区で高齢化が顕著で各公民館、現役世代の利用者が少なく苦慮している。また、地域においての担い手も同様に高齢化、固定化している。そういった状況の中で、委員のみなさまから、ご意見、アドバイスをいただきたい。
- 福島委員： 青山地区のラジオ体操は大変よい取組。また、公民館も図書館を併設しており、活気がある。
- 稲見委員長： 多世代が交流されている中で、リーダーが見つかるということですね。そもそも若年層が減っていっている中で、その世代を取り込もうされている公民館の苦勞が思い浮かぶ。
- 徳沢委員： PTAの役員時には、学校と公民館が連携して事業展開していた。本年度より、学校経験者の館長もおられる。公民館と学校の連携について、教えていただきたい。

山本委員： 志染を例にとると、雨天時に部活で公民館の大会議室を利用させていただいたりしている。また、生徒が少ない反面、公民館活動への参加率は高いのではないか。また、7月豪雨の際には避難所として開設され、生徒も避難していた。そういったことを踏まえると公民館は、情報の発信源であったり、地域の拠り所となっている。

蓬萊委員： 中央公民館は三樹小学校に近く、生徒が公民館に来て地域住民と花植えを実施している。そういう中で、公民館や地域とふれあうことにより、なじみを覚え、将来的に地域や公民館活動に参加してくれるのではないか。

あわせて、地域住民として公民館の環境整備に携わっているが、今年度より公民館の所管が教育委員会に戻った中、公民館の環境整備についての考えを聞かせていただきたい。

河端主幹： 公民館の事業を展開していく中で、どうしても地域のニーズに合わせた形になりがちであり、それが参加者の固定化の原因になっているのかもしれない。各公民館も次世代のリーダー発掘のため、使命感を持って事業を立案している中、日ごろ公民館を利用されている立場として、ご意見がいただきたいと、質問させていただいた。

稲見委員長： 蓬萊委員からの意見にもあったが、若年層を事業で呼ぶだけではなく、いろんな世代が気軽に来館できる環境を整えるのも大事ではないか。

福島委員： ロビーに喫茶（サロン）コーナーが整備されている公民館はどこか。

事務局： 中央公民館、志染町公民館、吉川町公民館です。

福本館長： リーダー発掘に関して、吉川町公民館の主要な登録団体で構成される吉川町文化協会の主催で「音楽祭」と「作品展」を公民館を出て、隣接する集客施設山田錦の館を会場に開催している。会員以外も参加できる工夫がなされ、そういった所から、公民館活動に興味をもっていただき次世代につながっていけばと考えている。

藤原雅委員： 別所地区には、旧の下石野分校を活用した別所ふるさと交流館があり、地域にのメンバーにより「さとの会」が組織され、週末は休館であるが高齢化の進展した地域のサロンとして機能し、独り暮らしの方も増えており、地域にとって、なくてはならない場所になっている。旧の学校でもあるので、グラウンドがあり、テニスコートとして整備し利用者もある。また、月に数回餃子を中心とした配食もしており、別所町に合わせ、緑が丘町の文化祭にも出店している。ただ、組織として担い手が不足しており活動が広がっていないのが現状である。別所町公民館との連携もあるが、施設の所管は生涯学習課となっており、「さとの会」の定例会にも出席していただいている。

西本教育長： 蓬萊委員から予算措置についてありましたが、この4月から市長部局から教育委員会部局に所管替えされましたが、予算面につきましては基本、変更はありません。ハード面に目をむけますと各公民館も老朽化している中、平成32年度中に各施設の長寿命化計画を立てなくてははいけません。今年度については、志染町公民館と吉川町公民館について、耐震診断・設計を行い来年度に工事の予定となっています。